



思い出いっぱいのWSCに入会して初めての参加ツアー

理事（東京都練馬区）

もう鬼籍に入られてしまったが、副会長をされたYさんからWSCを紹介された。Yさんはある日NHKのテレビ番組でWSCを知り、すぐに入会したそうである。ご近所に住まわれていたご縁で、「とにかくユニークで魅力的なクラブだ」と、熱く入会を勧められた。今でも入会の手続きに訪問した新宿区若宮町のWSCの事務所が懐かしく思い出される。

2005年2月「自然にどっぷり in BORNEO 19日間」のツアーに早速参加することができた。このツアーは2002年より毎年マレーシア・コタキナバルを中心に実施されたツアーのボリュームを拡大された企画であった。キナバル高原を中心とした熱帯雨林のトレッキングに加え、サラワク州グヌン・ムル国立公園での大洞窟、鍾乳洞巡り。サバ州の東側のサンダカンを中心としたツアーが加えられていた。セピロックのオランウータン保護センター。キナバタンガン河流域の野生動物を巡るリバークルーズ。さらに、サンダカンより海上40km沖、フィリピン国境に近いセリンガン島でウミガメの産卵を体験するものであった。将に“自然にどっぷり”に相応しいツアーが展開された。

参加者は総勢14名で、3組の夫婦とあとは全員女性であった。現地ではJCTICで日本語ボランティア活動をされてコタキナバルに滞在されていた方の特別参加が5名程あった。このツアーでお会いした方々で、現在もWSCに在籍されている方は2名。若干寂しい感じがしている。

私も来年は傘寿、WSCのツアーに初めて参加した頃のような旅は困難となっているが、この初めての参加ツアーは忘れがたく、印象の強いものがある。セリンガン島で孵化したばかりの小さなウミガメを渚に放した時、掌でもがいた子亀のこそばゆい感じが忘れられない。キナバルECO-FOREST PARKで、サラワク州森林局へ植林の寄付をツアー全員で行い、数十本の苗木を汗をかきながら植林してきた。あれから15年、多分立派に育っていることだろう。できれば是非見に行きたいものである。



TANJUNG ARU RESORTの夕日